

**1 学校教育目標**

○ よく考えすすんで学ぶ子 ○ やさしさと思いやりのある子 ○ 明るく元気な子

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	足立小学校の理念「期待の登校・満足の下校」 ○ 全ての子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校 ⇒「子供にとって安全・安心な学校」 ○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校 ⇒「教職員が高め合う学校」 ○ 保護者が我が子を通わせてよかったと実感でき、地域からも信頼される学校 ⇒「保護者や地域とともに子供を育む学校」
○児童像	○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童 ○ 互いの違いやよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童 ○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童
○教師像	○ 全ての児童の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導ができる教師 ○ 児童に求めることは自ら率先垂範し、自ら学び続ける教師 ○ 学校に求められる課題を真摯に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

【学校の現状】

開校13年目、「期待の登校・満足の下校」を理念とし、学校教育目標の達成に向けて取り組んでいる。知的障がい特別支援学級や視覚障がい通級指導学級の設置校であることから、一人一人の特性と多様性を大切にされた教育を進めている。学力面は、国語の「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。また、児童の約3割は学区外に居住していることから、登下校等の安全・安心な学校づくりの推進が重要である。

【前年度の成果と課題】

「学校に行くのが楽しい」と肯定的に回答をした児童の割合は 88.1%であった。「期待の登校・満足の下校」をより充実していくため、否定的な回答をした子供が、「学校に行くのが楽しい」と思えるようにしていくことが課題であり、家庭、地域、関係機関と一層の連携していくことが重要である。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校づくりの推進	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む活動の充実	○	○	○	○	○

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項-1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
確かな学力の定着		・区調査目標通過率 85% ・到達度確認テスト 80%	・区調査目標通過率 84.9% ・到達度確認テスト 83.5%	区調査目標通過率は、未達成。2月実施の到達度確認テストでは目標通過率を達成できた。			○		
B 目標実現に向けた取組み									
新規 継続	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全学年 全教科	年間	足立スタンダード虎の巻に基づく授業の定着とICT機器及び一人1台端末、SP表等の活用	自己申告 授業観察 単元テスト	実施率 100%	100%実施	全て実施しているが、今後、質の向上を図っていくことが必要	○
2 継続	授業力向上	全学年 国・算	年間	教科指導専門員を活用した若手教員の授業力向上	本人及び専門員からのヒアリング	満足度 100%	若手教員の授業力に対しては、全ての教員が満足している。	事前・事後指導を含め教職及び教科の専門性向上に資している。	◎
3 新規	初期の読みの力の育成	1学年 国語等	年間	多層指導モデルMIMの実践、MIM-PMの実施及び個別の配慮計画に基づく特別支援教室と連携した個別指導の徹底	MIM-PMの実施(月ごと)	3rd児童の割合 10%以下 (2月実施)	21%	3rd児童については、読みに対し、課題があるため、次年度以降も引き続き取り組む必要がある。	△
4 新規	校内研究の実施	全学年 国語等	月1回	研究主任を中心に「読むこと」「書くこと」の改善や「探究」をテーマとして実施	自己申告 授業観察	研究に得られた知見を全ての教員が活用	全5回実施、全教員が主体的に参加、授業観察時に活用	授業を情報活用能力の視点から分析する力を身に付けた。	○
5 新規	教科担任制等の実施	全学年 一部教科	年間	一部教科担任制や学級担任間の授業交換による、授業の質の向上、各教科の専門性向上、多面的な児童理解の深化	学校評価アンケート 授業観察	「児童がすすんで学習に取り組むことができるように授業を工夫」 肯定的回答 90%以上	肯定的回答:82.5% 否定的回答:9.7% わからない:7.8%	一部教科担任制等の実施により、教科の専門性や教員同士の児童理解が深まったが、学校評価への反映は不十分であった。	△

重点的な取組事項-2		安全・安心な学校づくりの推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
子供がより安全に、安心して学ぶことができる学校環境の整備		学校評価アンケート(以下の3項目)	安全な学校教育の整備は高評価であったが、誰もが学び、生活しやすい環境が目標に未達	多様な子供に対する学習の保障を強化していく	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1)安全な学校環境の整備	学校評価アンケート 「学校は、児童が安全に過ごせるように指導するとともに、施設、設備、体制を整備している」 肯定的回答 90%以上	①地域の災害リスクを踏まえた実践的な避難訓練、安全指導の充実、荒川の洪水をテーマとした防災教育の実施 ②家庭・地域等の連携による登下校時の安全管理の充実 ③子供目線の安全点検の実施	肯定的回答:98.6% 否定的回答:1.9% わからない:1.5% ①水害をテーマとした教員研修(8/4)、4年生を対象とした公開授業(9/26)を実施	今年度、「あだち防災教育プロジェクト実施校」として、水害に関する防災教育を新たに実施、次年度以降も継続していく。	◎
(2)健やかな心と体の育成	学校評価アンケート 「学校は、児童が運動に親しみ、体力が向上するように取り組んでいる」 肯定的回答 90%以上	①児童の実態を踏まえた体力向上の取組(元気アップタイム)の充実 ②歯みがきタイムの実施による歯みがきの習慣化、家庭への啓発	肯定的回答:91.7% 否定的回答:4.9% わからない:3.4% ①年間を通して実施 ②歯科検診後の受診勧告(う歯以外含む)による受診率:58.7%	体力の向上については一定の成果は見られるものの、歯科検診後の受診率の改善が課題である。	○
(3)誰もが学び、生活しやすい環境の構築	学校評価アンケート 「学校は、誰もが学び、生活しやすい環境を整えようとしている」 肯定的回答 90%以上	①一部教科担任制等による多面的な児童理解に基づく生活指導の推進 ②「ユニバーサルデザイン」の視点を踏まえた学習環境の整備 ③いじめアンケートやWEBQUを効果的に活用した相談体制の充実 ④コミュニケーションの教室における個別指導・小集団指導の充実、在籍学級との連携強化 ⑤組織的な不登校への対応及び関係機関との緊密な連携	肯定的回答:87.4% 否定的回答:8.7% わからない:3.9% ①学年の教員による多面的理解が向上 ②組織的に整備を行うことは課題 ③調査結果を学級経営、個別支援への活用 ④個別支援及び小集団指導の充実を図り、担任教員との連携に努めた ⑤SSW や児童相談所等の関係機関との連携に努めた	誰もが過ごしやすい環境の構築については、次年度はウェルビーイングの視点を踏まえ、学年経営、学級経営等を強化していく。	△

重点的な取組事項-3		保護者や地域と共に子供を育む活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域と連携した教育活動の充実		学校評価アンケート(以下の3項目)	学校評価アンケートの3項目については全て90%以上を達成	引き続き充実を図っていく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1)学校と保護者、地域との連携	学校評価アンケート 「学校は、保護者や開かれた学校づくり協議会との連携を深めようとしている」 肯定的回答 90%以上	①保護者や開かれた学校づくり協議会と連携した交通安全や花壇整備、学力向上等につながる取組等の充実 ②地域の人材・学習材を効果的に活用した取組の実践	肯定的回答:93.2% 否定的回答:2.9% わからない:3.9% ①年間を通じて実施、漢字検定、季節の校内掲示の児童との連携 ②2年町探検や清掃活動による地域との連携の強化。	保護者・地域と連携して学校内外で多くの取組を実施し、児童の活躍の場を設けることができた。「わからない」との回答への対応が課題。	○
(2)情報発信の充実	学校評価アンケート 「学校は、保護者、地域に教育活動を参観したり報告したりする機会を適切に設けようとしている」 肯定的回答 90%以上	①学校ウェブサイトや C4Th Home & Schoolによる教育活動の積極的かつ定期的な配信 ②授業公開や保護者会等の実施の工夫 ③学校評価の実施及び報告の工夫	肯定的回答:95.1% 否定的回答:3.9% わからない:1.0% ①学校日記等の定期的な更新 ②年5回の土曜授業公開の実施 ③フォームの活用や設問に関わる情報提示するなど工夫して実施	C4Th Home& Schoolや学校ホームページを中心にデジタル化を推進し、学校からの情報を発信することができた。	◎
(3)望ましい人間関係の構築	学校評価アンケート 「学校は、児童にとって楽しく充実した学校行事や活動を計画、実施している」 肯定的回答 90%以上	①「夢デザインシート」等を活用したキャリア教育の充実 ②異学年交流活動(ハロハロ活動)等の充実 ③学級活動やクラブ活動、学校行事等を通じた、積極的に集団に寄与する態度の育成	肯定的回答:94.2% 否定的回答:4.4% わからない:1.5% ①全学年で夢デザインシートを活用、6年租税教室の充実 ②アダッチワールド等の異学年交流の実施 ③ユニセフ活動、服プロジェクト等の児童会活動の実施	本校の特色である異学年交流の充実に努めた。高学年がリーダーとなって自発的・自治的に活動する機会を増やすことができた。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点目標である「学力向上アクションプラン」については、足立スタンダードが定着してきたが、ICT機器の活用は、より効果的な活用が必要である。若手教員を中心に一層教科指導専門員等を活用し、授業力向上を図ることができた。学校評価アンケートや児童質問紙から、本校の課題として、①学校での授業は分かるが、勉強はあまり好きではない児童が多いこと、②家庭学習の習慣が十分に身に付いていないこと、③読書習慣が十分に身に付いていないことが本校の課題である。次年度に向け、①「勉強が好き」な子を育てる児童主体の学びの推進として、「足立スタンダード」による授業の基本をもとにした基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、ICT機器を活用した「わかる授業」のさらなる推進、学校図書館の更なる活用、読書の推進に加え、児童が主体的な学び、探究的な学び等を推進するための校内研究の実施により、全ての教員の授業力向上を図っていく。②安全・安心に学ぶことができる居心地のよい学校・学級づくりに向け、今年度から実施している一部教科担任制、交換授業等による多面的な児童理解を引き続き取り組んでいくとともに、学級の「ふつう」を子供たちがアップデートしていく授業の実施に取り組んでいく。③足立区教育DX推進プランに基づき、活動指標(KPI)に示されている場面(①～⑤)におけるタブレット端末の活用促進を図るとともに、AI型教材「Qubena(キュービナ)」を一層活用し、家庭学習の習慣化を目指していく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度も保護者の皆様、開かれた学校づくり協議会、地域の皆様をはじめ、足立小に関わっていただいた多くの皆様のご支援、ご協力のおかげで、充実した教育活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。今後も教育活動の更なる充実に努めてまいりますので、引き続き教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。